

運転者も歩行者も安全確認していますか？

今年も、「春の全国交通安全運動」が実施されます。町では、4月8日～10日の3日間を「交通安全日」として、町内の横断歩道で交通指導隊員が交通安全指導を行います。

交通事故を未然に防ぐためには、皆さんの日ごろからの交通安全に対する意識が必要です。運転者も歩行者も交通ルールを守りましょう。



表彰されました

町での1年間の交通事故の死亡者数が0

2月4日(月)、平成19年度交通安全対策推進優良協議会が開催され、開成町が1年間の交通事故の死亡者数が0という事で表彰されました。

同時に、開成町を含む足柄上地域5町が交通事故の死亡者数0であったため、管轄する松田警察署が神奈川県警本部長より優良署として表彰されました。また、長期にわたり交通事故防止に貢献してきたことに対しても、表彰を受けました。



右から田畑松田警察署長、露木町長、高橋松田警察署交通課長。

●環境防災課 ☎84・0314

県西地域 合併検討会 情報 ⑤

合併したらどんなまちになるの？

2市8町で構成する県西地域合併検討会では、約1年をかけて、市町村合併のメリツト・課題の整理、主要な事務事業の調査、さらには各市町の「強み・課題」の抽出、財政推計などを行ってきました。

県西地域の将来像は

豊かな自然資源と高度な都市機能などの各市町の特性やそれぞれが有する「潜在力」を最大限に発揮することによって、多くの可能性を秘めた新たな都市をめざします。

力みなぎる交流都市

県西地域の将来像

～豊かな資源を活かし、活発な交流を生む自律した地域へ～

- ◇歴史・文化・自然などの豊かな地域資源を活かすとともに魅力ある都市機能を集積することで、観光客の増加や地産地消の推進など人・物・情報の活発な交流を生み出し、すべての住民がまちの主役として活躍し、生き生きと希望を持って暮らせるまちをめざします。
- ◇そこで暮らす人々がともに支え合い、心豊かに健康で安心して暮らせる人に優しいまちをめざします。
- ◇歴史を感じさせる都市の風格と新たな可能性に向けた都市の近代化が調和した生活感あふれるまちづくりをめざします。
- ◇豊かな自然環境を貴重な財産として守り、住む人・訪れる人にとって心満たされる故郷のまちをめざします。

●県西地域の基本理念

- ・都市機能の形成
- ・観光交流の強化
- ・豊かな自然環境の保全・再生
- ・生活・福祉の向上

特派員レポート

助け合いの気持ちが地域の和を作っています

～下島ボランティア会・学童の下校時の通学の安全見守りグループ～



開成町では、七つの自主防犯団体が組織され、防犯・交通安全パトロール隊を組み、地域の交通事故の抑制に当たっています。

今回は、自主ボランティア組織として活動している「下島ボランティア会・学童の下校時の通学の安全見守りグループ」取材しました。

まちづくり情報特派員 小野 龍男

発足のきっかけは

「手助けの気持ち」から

「下島ボランティア会・学童の下校時の通学の安全見守りグループ」は、平成17年7月に発足し、同年9月から毎日、児童の下校時刻に合わせて、
①下島交差点
②魚常脇T字路
③小田急線7号踏切
の3か所で見守り活動をしています。メンバーの配置にも気を配り、一人の人が同じ場所に固定しないように事前に調整した予定表に基づいて、10人のメンバーが交代で行っています。

グループの発足について、代表の瀬戸靖之さんは、「下島地区は、近年急速に人口が増えていきます。また、学校ま



代表の瀬戸靖之さん

では少し距離があるため、転入してきたばかりの保護者や低学年の児童を持つ保護者の多くは、心配しながら子どもたちを送り出しています。そのような保護者の不安を少しでも取り除くため、下校時の通学の安全を見守るだけでもお手伝いできないかと思いつき、グループを立ち上げました」と話してくれました。

子どもたちとの交流が

活動のエネルギー

メンバーが子どもたちに「お帰り」と声をかけると、子どもたちからは「ただいま」と大きな声が返ってきます。

最近では、子どもたちの名前も覚え、顔色を見て健康状態の良し悪しもわかり、名前前で声をかけることも多いといます。なかには時間を聞いたり、笑顔で話しかけてきたりする姿も多く、子どもたちとの間に近親感が芽生えてきているようでした。

子どもたちに「ボランティアの皆さんがいつも見守ってくれていますか、どう思いま

すか」と聞くと、6年生の男の子は「はずかしくて、ありがたうと言葉にして言っているわけではないけど、心の中ではいつもありがたうと思っています」と答えてくれました。2年生の4～5人の女の子たちからは「安全です」と一声に返事が返ってきました。

また、子どもたちだけでなく、買い物帰りの人や行き交う人も、メンバーに会釈をして労をねぎらっている姿が見られました。

メンバーが子どもたちや通行人たちと自然に声をかけ合っている光景を見て、瀬戸さんが活動の動機に述べられた助け合いの気持ちが地域の和を作り出しているように感じられ、人の心の温かさが伝わってきました。

最後に瀬戸さんは、「私たちは子どもたちからたくさんの元気をもらっています。少しでも仲間が増えれば、危ないと思われるほかの場所にも配備したいと思っています」と、子どもたちを見守る熱い思いを口に出していたのがとても印象的でした。